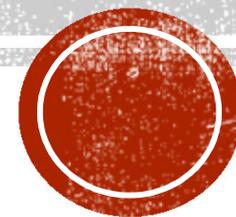


平成27年度 全国学力・学習状況調査

大仙市分析結果



大仙市教育委員会

I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学、理科
- 4 調査内容
 - ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
 - A：「知識」など基礎学力に関する問題
 - B：思考力など「活用」に関する問題
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成27年4月21日（火）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

| | | |
|------------|---------|------------------------|
| 全国（国公立小学校） | 20,327校 | （実施率 99.3%…1,074,707人） |
| 秋田県公立小学校 | 213校 | （実施率100 %………7,669人） |
| 全国（国公立中学校） | 10,568校 | （実施率 95.8%…1,056,921人） |
| 秋田県公立中学校 | 118校 | （実施率100 %……… 8,166人） |

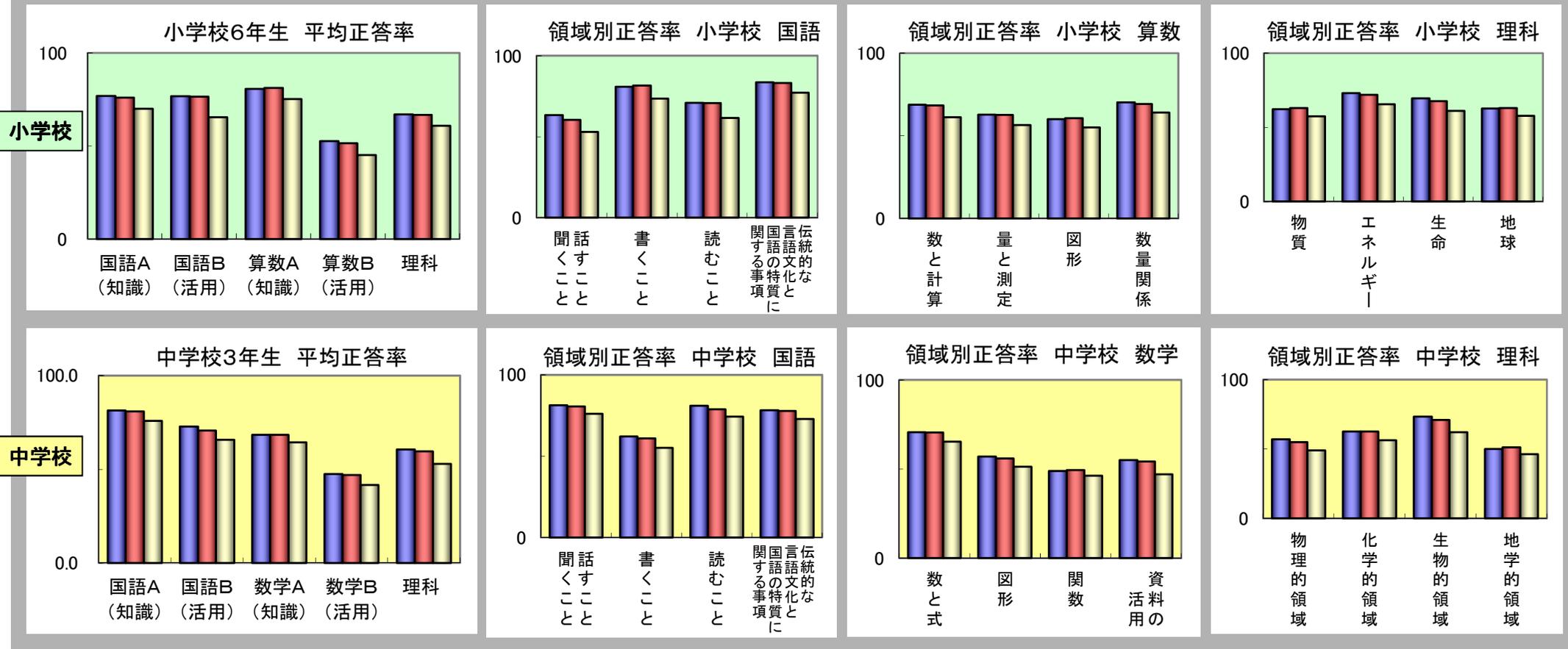
Ⅱ 教科に関する調査結果

1 概要

- 小学校算数A以外が全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。（算数Aは本県平均正答率とほぼ同程度）
- 小・中学校共に活用に関わるB問題において、全国及び本県の正答率を上回っていることから、各学校における組織的な研究体制のもと、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。

2 結果

【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

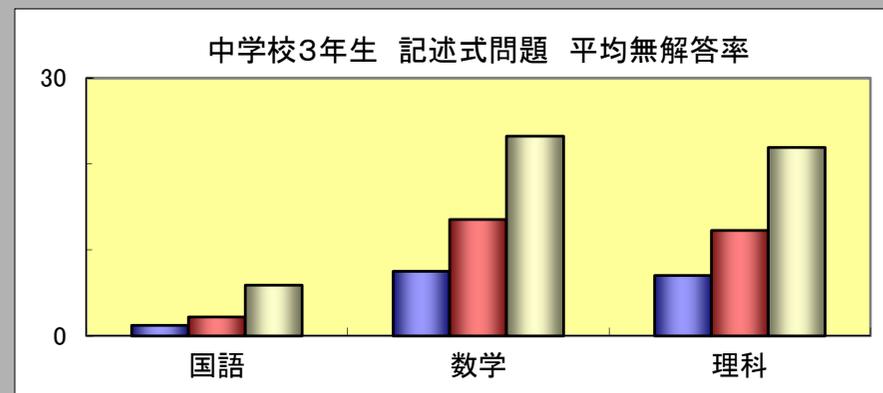
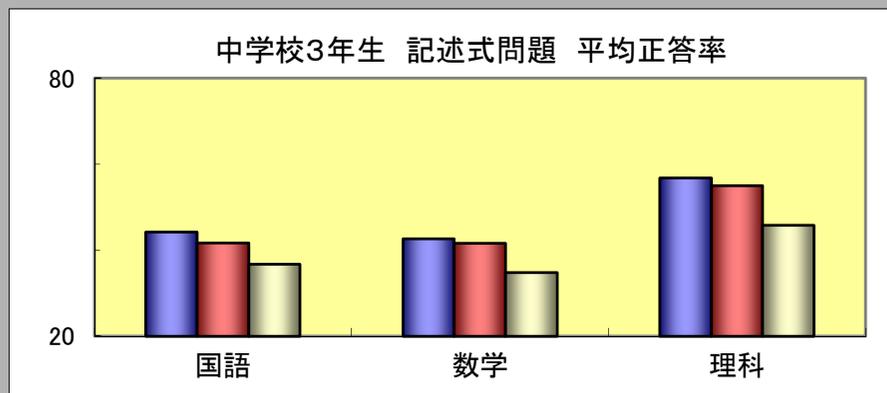
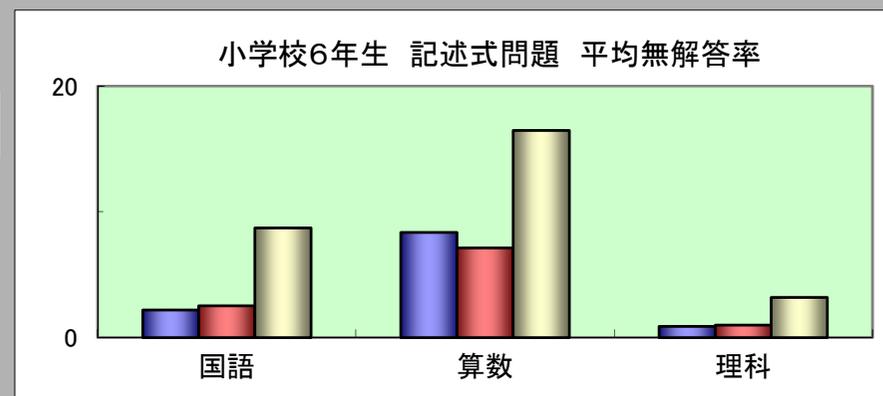
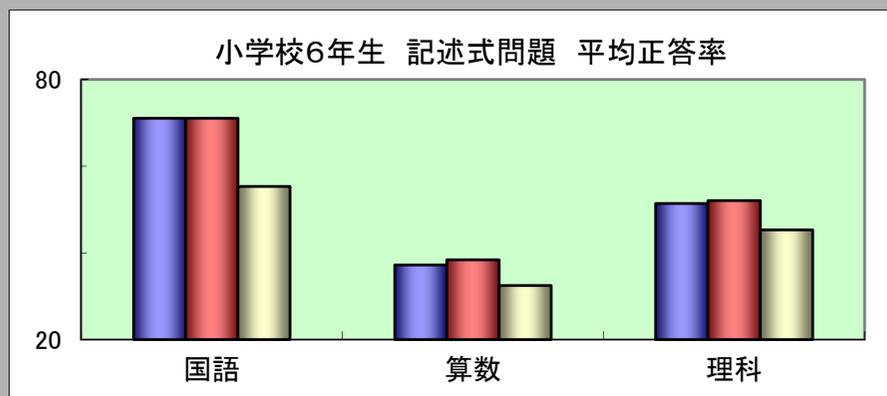
1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

○小学校算数・理科以外の記述式問題で平均正答率が高く、全国や本県を上回っている。また、記述式問題の無回答率については、全国や本県よりも概ね良好な状況が維持されているが、小学校算数は課題がある。

○正答数の分布から、学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ない状況は維持されている。（P. 22～23参照）

【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校

大仙市
秋田県
全国

中学校

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

2 要因

① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が受容される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、ティームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表する機会や話し合う活動を取り入れた児童生徒主体の授業や、目的に応じて文章を読んだり、根拠をもとに説明したりするなど、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼保・小・中・高・大等との異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

⑤ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

- 文部科学省・国立教育政策研究所等の研究指定校事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班の単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援地域本部事業などを中心に、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上・基本的生活習慣の確立に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
 - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ運動、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅等）の実施、体験的学習の時間支援事業の実施、学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
 - ・学力向上推進委員会による学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成
 - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
 - ・学校訪問の実施（教育委員等訪問、教育長等訪問、指導主事訪問 など）
 - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

3 課題

①「知識」に関するA問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、小学校算数の「数量や図形についての知識・理解」、中学校国語の「言語についての知識・理解・技能」、中学校数学の「数量や図形についての知識・理解」・「数学的スキル」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な内容の習得の徹底を図る必要がある。

②「活用」に関するB問題については、全国や県の結果に比べて概ね良好であるが、小学校算数の「数学的な考え方」、中学校数学「数学的な考え方」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、基礎的・基本的な知識・技能の活用を目的とした一層の授業改善が求められる。

③理科においては、小学校の「観察・実験の技能」、中学校の「科学的な思考・表現」において、全国及び県の平均正答率を下回る問題があり、日常生活や社会の特定場面において、理科で学習した知識・技能を活用できるような一層の授業改善が求められる。

課題が見られた問題例（国語）

＝国語の課題と改善に向けて(小学校)＝

■H27年度の調査結果に基づく主な課題

- ・新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることについて、依然として課題がある。
- ・登場人物の相互関係を捉えることについて、依然として課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・目的や意図に応じて聞き方を工夫する指導の充実
- ・目的や意図に応じて、取材した複数の内容を整理して記事を書く指導の充実
- ・目的に応じて、適切に引用する指導の充実
- ・主語と述語、修飾と被修飾との関係に注意し、文の構成を理解する指導の充実

【小学校国語A5二】

全国平均正答率 19.8%
県平均正答率 24.5%

○コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。

【中学校国語A9三才】

全国平均正答率 49.0%
県平均正答率 49.0%
○適切な語句を選択する。

【中学校国語B2三】

全国平均正答率 23.0%
県平均正答率 28.6%

○複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。

＝国語の課題と改善に向けて(中学校)＝

■H27年度の調査結果に基づく主な課題

- ・伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書くことについて依然として課題がある。
- ・目的に応じて文章や資料から必要な情報を取り出し、それらを基にして自分の考えをまとめることについて、依然として課題がある。
- ・根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことについて、依然として課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・相手や目的、状況に応じて話す指導の工夫
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く指導の工夫
- ・多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ指導の工夫
- ・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫

三 次のアからオの文では、
1 から 4
力の文では、
線部に当てはまる

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

番号を書きましょう。

【小学校算数A 5 (2)】

全国平均正答率 64.5%
県平均正答率 68.8%

○円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる。

同
長

【小学校算数B 5 (1)】

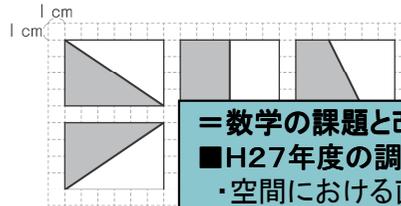
全国平均正答率 12.5%
県平均正答率 15.8%

○長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された図形の面積が等しくなる理由を記述できる。

4 一つの円の直径の長さは、円周上の2つの点を結ぶ直線の中でいちばん長い。

5

次の図のように、長方形の面積を2等分するために、その長方形に1本の直線を引き、2つの合同な図形に分けました。



上の図を見て、あかねさんは

これら直線を引くとき、直線は1つの点を通ります。

= 数学の課題と改善に向けて(中学校) =

■ H27年度の調査結果に基づく主な課題

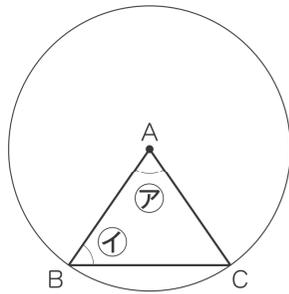
- ・空間における直線と平面の垂直についての理解、証明の必要性と意味の理解に課題がある。
- ・記述式問題のうち、数学的な表現を用いた理由の説明、図形の性質を用いた方法の説明に課題がある。

□ 指導改善の主なポイント

- ・事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表す活動の充実
- ・図形の性質に着目し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明する活動の充実
- ・数学的な解釈に基づいて、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実
- ・資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動の充実

(2) 下の図の $\angle A$ の角の大きさが 70° のとき、 $\angle 1$ は何度ですか。

答えを書きましょう。



= 算数の課題と改善に向けて(小学校) =

■ H27年度の調査結果に基づく主な課題

- ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることについて、依然として課題がある。
- ・事柄が成り立つことを図形の性質に関連付けることについて、依然として課題がある。

□ 指導改善の主なポイント

- ・目的に応じて概数や概算を活用し、結果の解釈と判断の根拠を数学的に表現する指導の充実
- ・単位量当たりの大きさを活用して、合理的に判断し、能率的に処理する活動の充実
- ・日常生活の事象を、図形の約束や性質と関連付けて考える活動の充実
- ・割合の考え方を活用して、合理的に判断する活動の充実

課題が見られた問題例 (算数・数学)

【中学校数学A 2 (2)】

全国平均正答率 22.2%
県平均正答率 23.5%

○数量の関係を文字式に表すことができる。

【中学校数学B 6 (1)】

全国平均正答率 46.5%
県平均正答率 44.3%

○与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる。

このテープの長さは a cm です。

このテープの長さは、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍です。

このテープの長さは何 cm ですか。 a を用いた式で表しなさい。

この点を通ります。

また、長方形の対角線が交わる点で、長方形の面積をいつも2等分できる

次のような表にまとめました。

| 中心角の大きさ x ($^\circ$) | 90 | 120 | 150 | 180 |
|--------------------------|----|-----|-----|-----|
| 半径の長さ y (cm) | 3 | 4 | 5 | 6 |

大輝さんは、上の表から、 x と y の関係が次の式で表されることに気づきました。

$$y = \frac{x}{30}$$

Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

【小学校理科4(1)】

全国平均正答率 41.1%
県平均正答率 46.2%

○方位を判断するために、観察した事実と関連付けながら情報を考察して分析できる。

(1) ゆりえさんは、午後8時に月を見つけました。

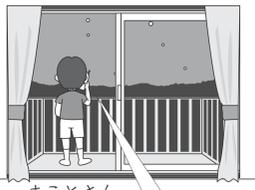


家の人 ゆりえさん

まことさんは、どの方位に月が見えているの?



ゆりえさん



まことさん

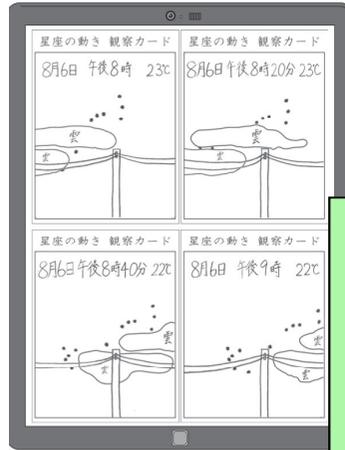
ぼくは、東の空を見ているけれど、90°右の方向に月を見つけたよ。

ゆりえさんが見ている方位について、どのようなことが考えられますか。

【小学校理科4(3)】

全国平均正答率 55.3%
県平均正答率 54.3%

○星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている。



観察カードに記録されている情報のうち、星座のもとにすると、星座の動くようすがわかりました。中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

課題が見られた問題例(理科)

【中学校理科2(3)】

全国平均正答率 14.5%
県平均正答率 16.0%

○他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて、雲の成因を正しく説明することができる。

【中学校理科6(2)】

全国平均正答率 29.9%
県平均正答率 33.7%

○音の高さは、空気の部分の長さに関係していることを確かめる実験を計画することができる。

2 若菜さんの学級では、先生が飛行機に乗ったとき

=理科の課題と改善に向けて(中学校)=

■H27年度の調査結果に基づく主な課題

- ・実験の結果を数値で表した表を分析して解釈し、規則性を見いだすことに課題がある。
- ・「課題に正対した考察をする」ことに課題があり、指導の充実が求められる。

□指導改善の主なポイント

- ・日常生活や社会の特定場面における理科で学習した知識・技能の積極的な活用
- ・観察・実験の結果を分析して解釈できるようにするための指導の充実
- ・予想や仮説を設定し、検証する実験を計画できるようにするための指導の充実
- ・自らの考えや他者の考えを、検討して改善できるようにするための指導の充実

=理科の課題と改善に向けて(小学校)=

■H27年度の調査結果に基づく主な課題

- ・観察、実験の器具について、適切な操作技能に関する知識の定着に依然として課題がある。
- ・観察、実験の結果を整理し考察することについて、考察した内容を記述することについて課題がある。
- ・予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることに課題がある。

□指導改善の主なポイント

- ・変化とその要因とを関連付けて考える活動の充実
- ・事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を説明する指導の充実
- ・学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考える活動の充実
- ・方位を捉えながら月や星を観察する指導の充実



図1

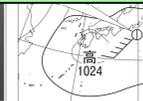


図2

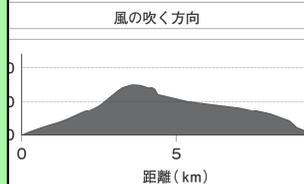


図3

【課題Ⅰ】
音の高さが高くなったのは、「空気の部分の長さa」が短くなったからか、「水の部分の長さb」が長くなったからか(図3)。



図3

【課題Ⅱ】
音の高さはaとbのどちらに関係しているのだろうか。

【方法】
同じ太さの4本の容器に水を入れておく(図4)。そして、その容器に水を注ぎ始めたときの音の高さを比較する。

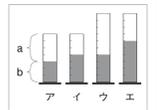


図4

【予想】
音の高さが「空気の部分の長さa」に関係しているならば、音の高さが最も高いのは **X** で、音の高さが同じものは **Y** と **Z** のはずである。
音の高さが「水の部分の長さb」に関係しているならば、.....

(2)【予想】の **X**、**Y**、**Z** に当てはまる最も適切なものを、それぞれ図4のAからEまでの中から1つ選びなさい。

| 日 | 1月23日 | 1月24日 | 1 |
|---------|-------|-------|---|
| 均気温(°C) | 5.9 | 9.2 | |
| 均湿度(%) | 66 | 71 | |

IV 学習環境に関する調査の結果

1 概要

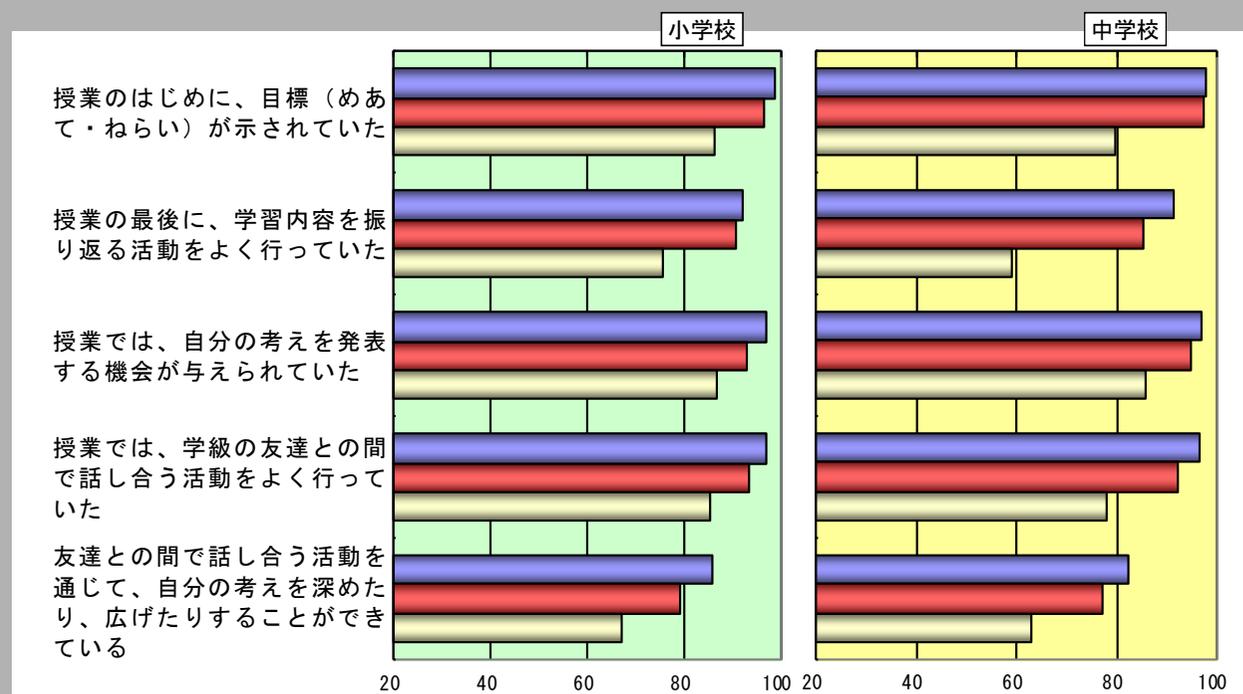
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 子ども主体の授業や達成感、自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで、学ぶ意欲が生まれ、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して、豊かな心が育まれている成果であると捉えている。

2 結果

(1) 学習状況

【資料3】「見通す・振り返る」活動と言語活動

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



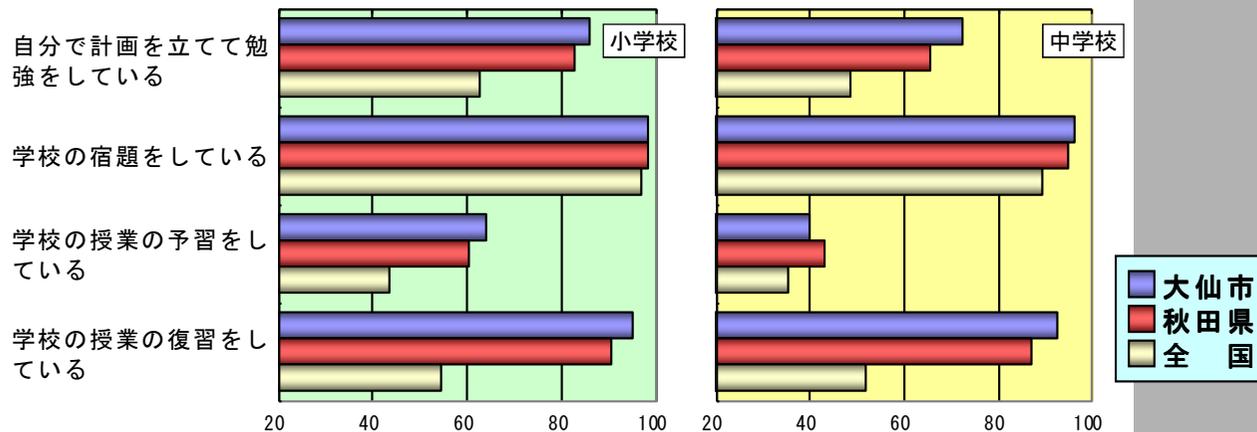
- 授業の中で、「目標が示されていた」「振り返る活動があった」と実感している児童生徒は、全国や本県を上回り、児童生徒の課題意識を大事にした学習の充実が図られている。
- 「考えを発表する機会が与えられていた」「話し合う活動をよく行った」と回答している児童生徒も全国や本県を上回り、言語活動の充実を図るとともに、子ども主体の学習が展開されている。さらに、「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、活動の質が高まってきている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

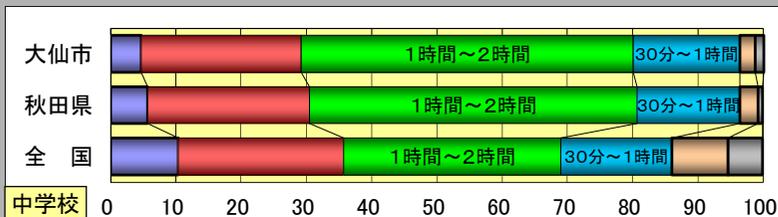
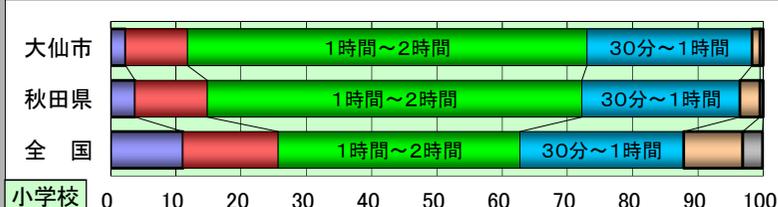
【資料4】家庭学習の様子



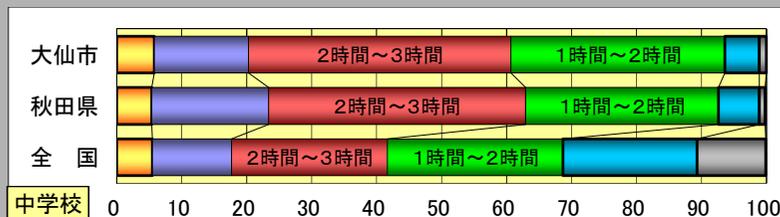
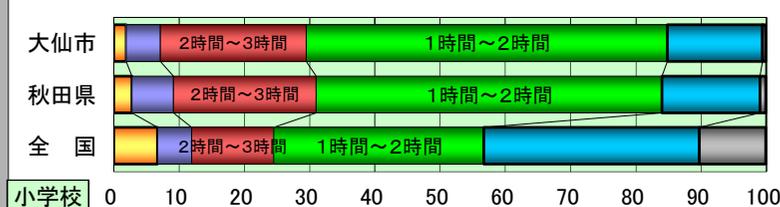
○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の予習、復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。前年度に比べ、「予習をする」児童生徒が増えている。

○平日、休日とも学習時間「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に全国や本県より多く、「全く学習をしない」に「学習時間が30分未満」を加えた割合は全国や本県より少ない。ただし、「2時間以上」は、小・中学生共に全国や本県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子が分かる。

【資料5-1】平日の学習時間



【資料5-2】休日の学習時間



【資料6】平均学習時間 [単位: 分]

| 小学校 | 平日 | 休日 |
|-----|-----|-----|
| 大仙市 | 110 | 130 |
| 秋田県 | 110 | 140 |
| 全国 | 120 | 110 |

| 中学校 | 平日 | 休日 |
|-----|-----|-----|
| 大仙市 | 130 | 170 |
| 秋田県 | 130 | 170 |
| 全国 | 120 | 130 |

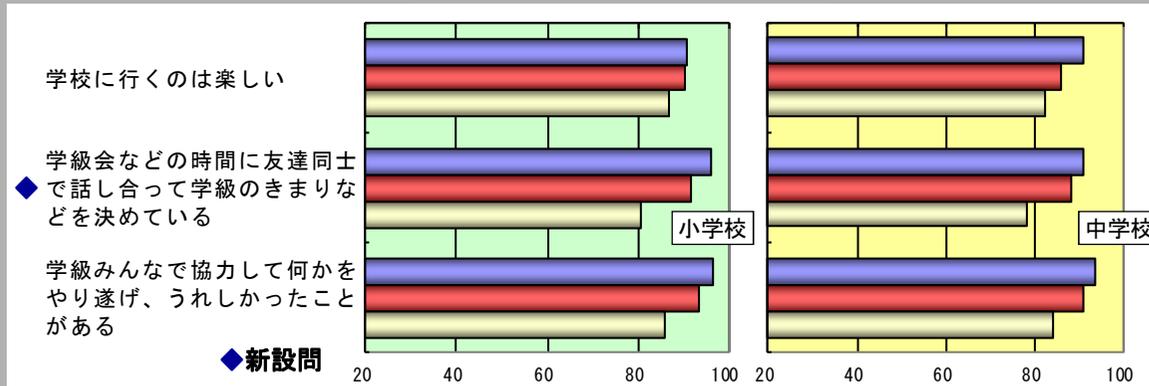
平日
 3時間以上 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 30分～1時間 (青) 30分未満 (茶) 全くしない (灰)
 休日
 4時間以上 (黄) 3～4時間 (紫) 2～3時間 (赤) 1～2時間 (緑) 1時間未満 (青) 全くしない (灰)

IV 学習環境に関する調査の結果

2-(3) 学校生活

【資料7】学校生活の様子

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

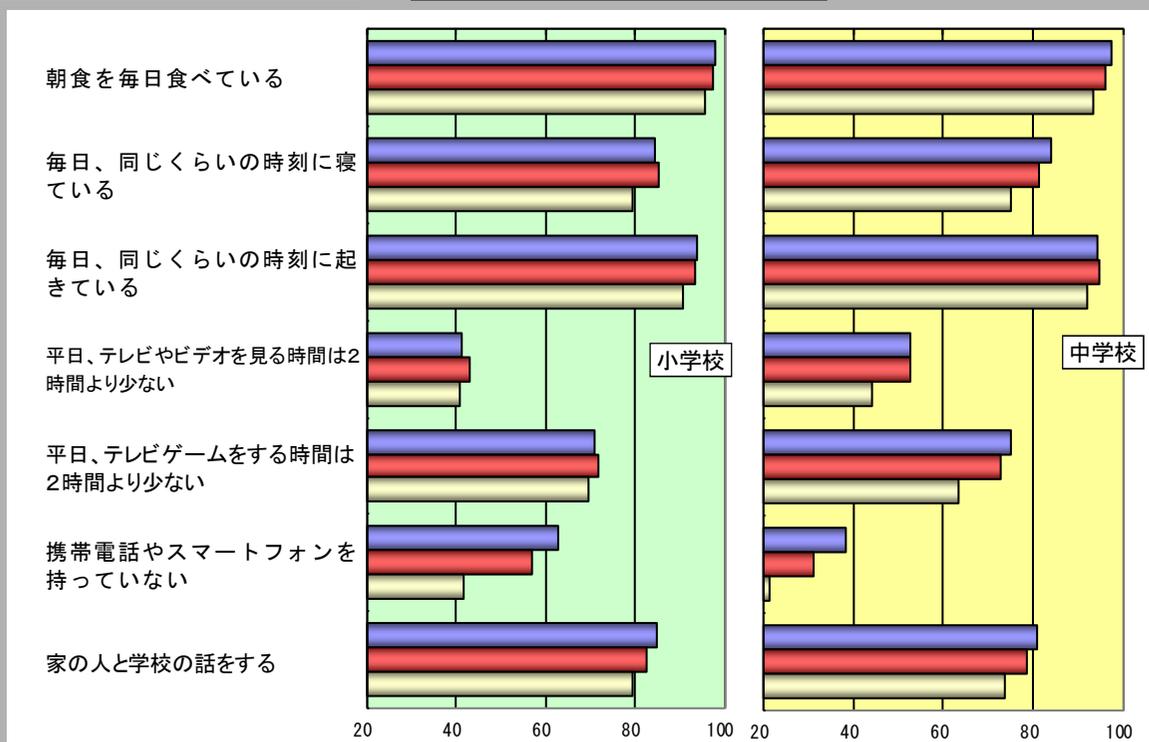


○小・中学生共に、全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は楽しく充実した学校生活を送っていることがうかがえる。

○「学級会などの時間に友達同士で話し合っ
て学級のきまりなどを決めている」という新設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、話し合い活動により学校生活を向上しようとする特別活動の充実が図られている。

2-(4) 生活習慣

【資料8】生活習慣の様子



■大仙市
■秋田県
■全国

○小・中学生共に全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は概ね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣や生活規律が身に付いているものと言える。

○「朝食を毎日食べる」が小・中学生共に前年度よりも改善されており、各学校と保護者との連携の成果であると思われる。

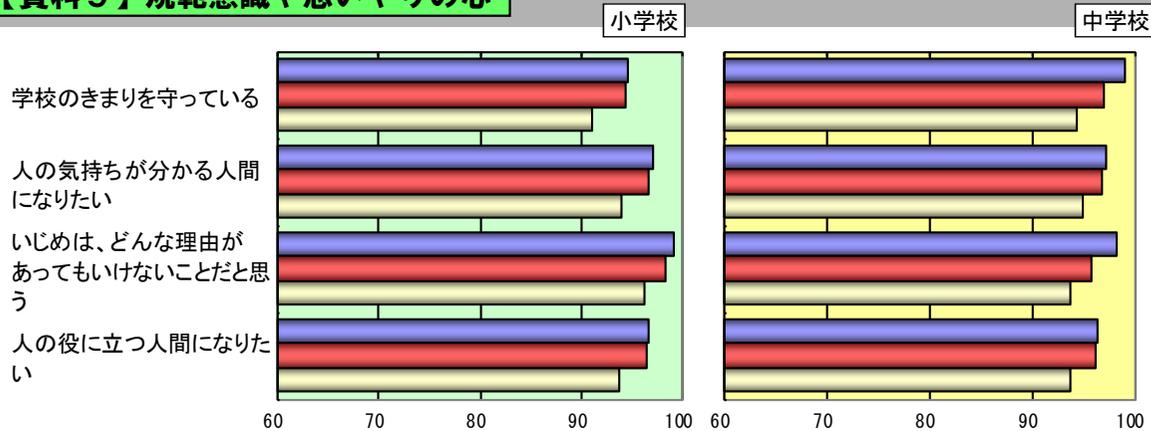
○小学校では「早寝」、「テレビ等を見たりテレビゲームをしたりする時間」、中学校では「早起き」の項目がやや本県を下回っており、基本的な生活習慣の見直しが求められる。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (5) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

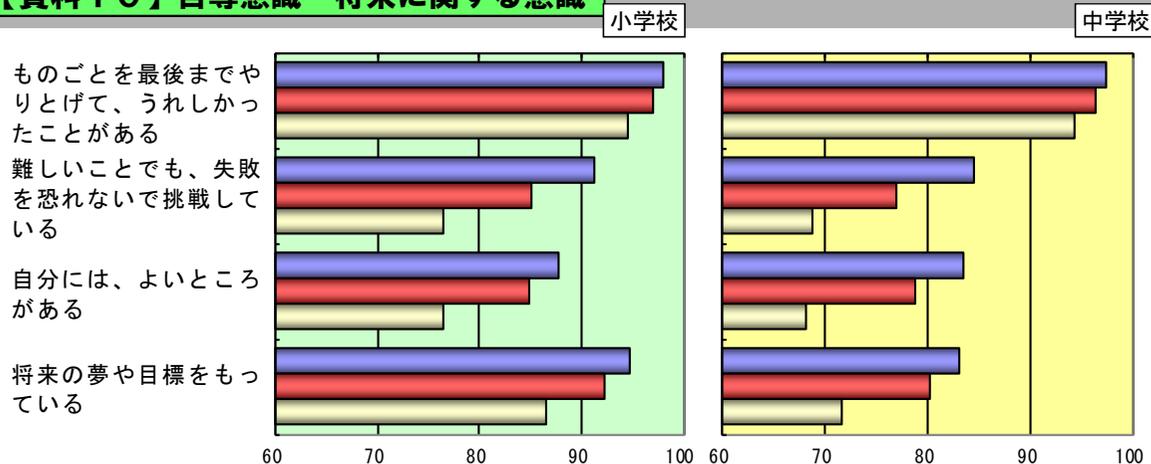
【資料9】規範意識や思いやりの心



- 学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。
- 中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。
- 好ましい家庭生活や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であると捉えている。また、「中(小)学生サミット」によるいじめ撲滅等の取り組みも、成果に結びついていると思われる。

2 - (6) 達成感や意欲

【資料10】自尊意識・将来に関する意識



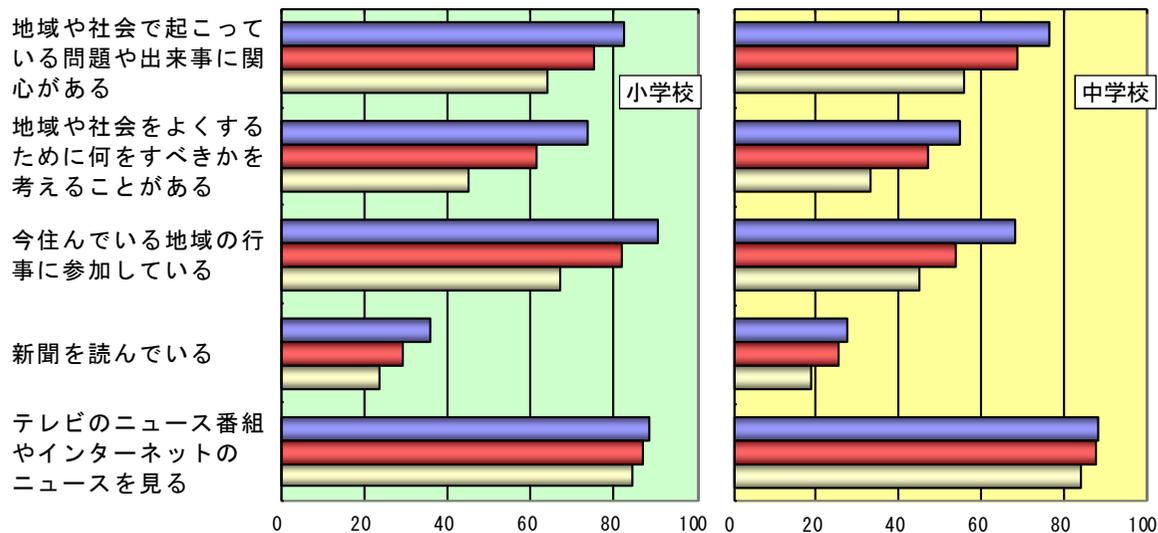
- 全国や県に比べ、多くの児童生徒が自己有用感や達成感、成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。
- 各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であると捉えている。

IV 学習環境に関する調査の結果

2 - (7) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

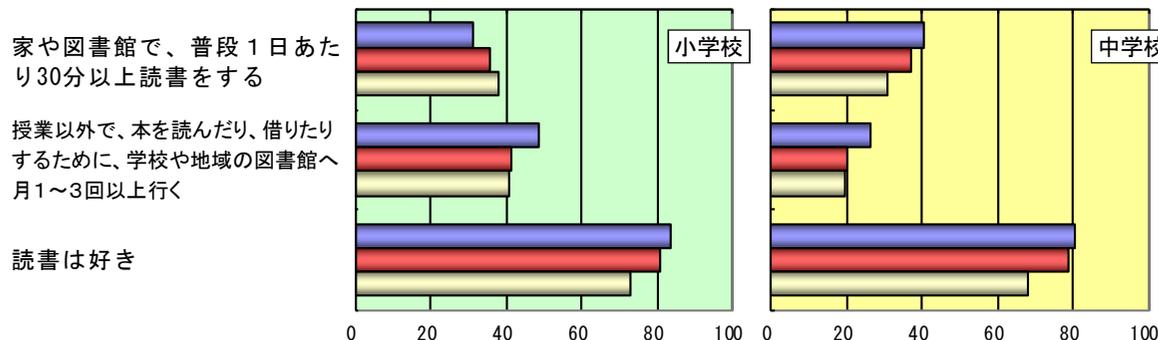
【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり



- 小・中学生共に「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域をよくするために何をすべきかを考えることがある」「地域行事に参加している」と回答している割合が国や県よりも高く、中学生が顕著である。
- 「新聞を読んでいる」「ニュースを見る」の肯定的な回答も国や県より高い。
- 中（小）学生サミットを通してエコ活動や被災地支援・交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域との関わりも深めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と大仙市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

2 - (8) 読書習慣

【資料12】読書に関する状況



- 小・中学生共に、「定期的に学校や地域の図書館に行く回数」が確保され、読書習慣の形成が図られていることが伺えるが、一方で、小学校において普段1日あたり30分以上読書をする割合が国や県よりも低く、課題である。
- 小・中学生共に、「読書が好き」と回答している割合が国や県よりも高いことから、家庭における時間の使い方等の見直しを図り、読書習慣の確立につなげていきたい。

V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

◎は相関が強い項目

【生活習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 毎日同じくらいの時刻に寝ている。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている。
- ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。
- 学校のきまりを守っている。
- 人の役に立つ人間になりたい。

【学習習慣等】〈相関がみられた主な項目〉

- 新聞を読んでいる。 ○読書が好きである。
- テレビやインターネットのニュースを見る。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

【調査問題への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- 国語で解答を文章で書く問題に、最後まで書こうと努力した。
- 算数・数学で言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題に最後まで書こうと努力した。
- 理科で解答を文章で書く問題に、最後まで書こうと努力した。

【授業への取組】〈相関がみられた主な項目〉

- ◎友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である。
 - 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
 - 原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことを難しいと思わない。
 - ◎自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思わない。
- 【国語】
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
 - 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
 - 自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。
 - 文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいる。
- 【算数・数学】
- ◎算数・数学の勉強が好きだ。 ◎授業の内容がよく分かる。 ○問題を解くとき、もっと簡単な方法はないか考えている。
 - 解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えている。

【理科】

- 自分なりの考えをまわりの人に説明したり発表したりしている。 ○観察や実験をもとに考察している。

V 学習環境と学力調査との相関

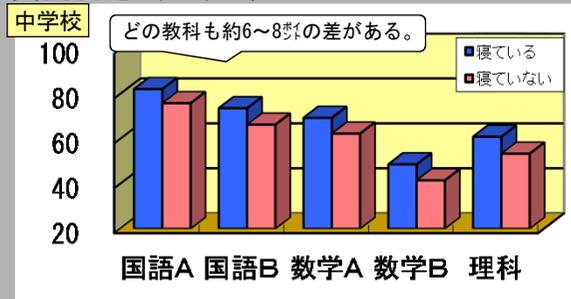
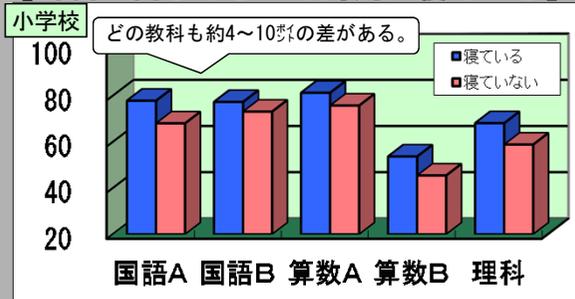
2 相関

【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

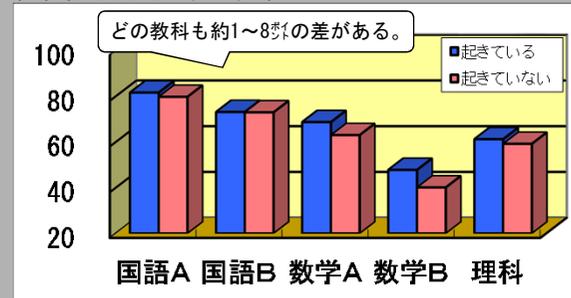
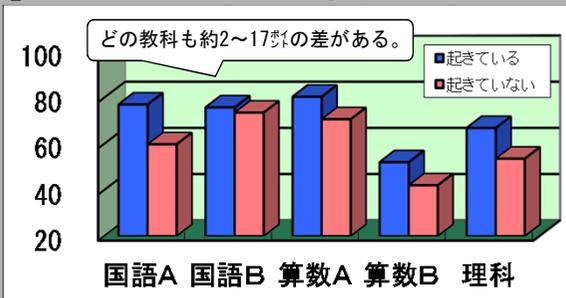
【資料13】

【毎日、同じくらいの時刻に寝ている】〈質問番号(2)〉



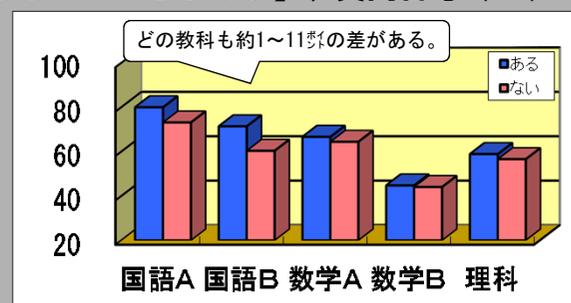
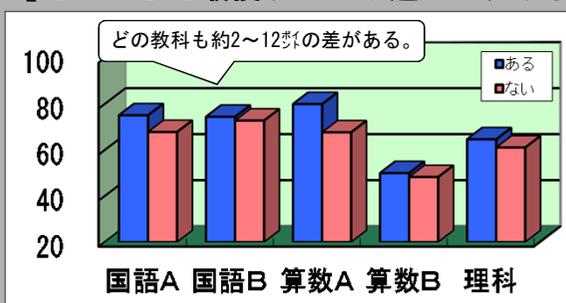
○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますかという質問に、「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号(3)〉



○毎日、同じくらいの時刻に起きていますかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小学校で相関が顕著である。

【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある】〈質問番号(4)〉



○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますかという質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

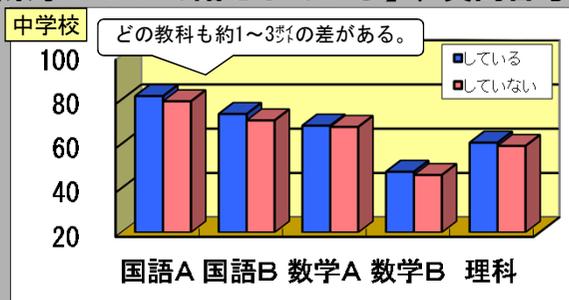
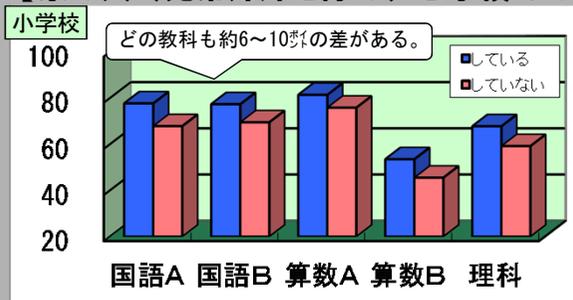
V 学習環境と学力調査との相関

【生活習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

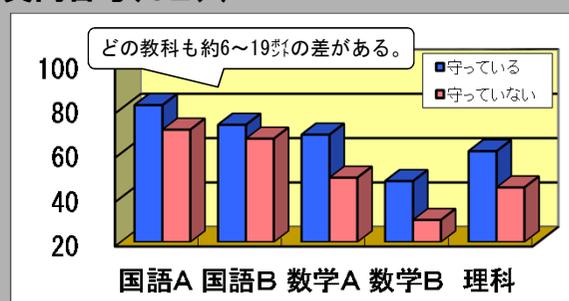
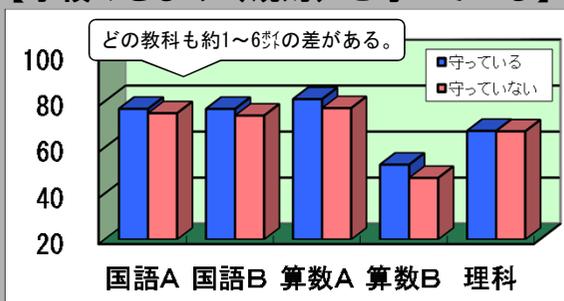
【家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている】〈質問番号（18）〉

【資料14】



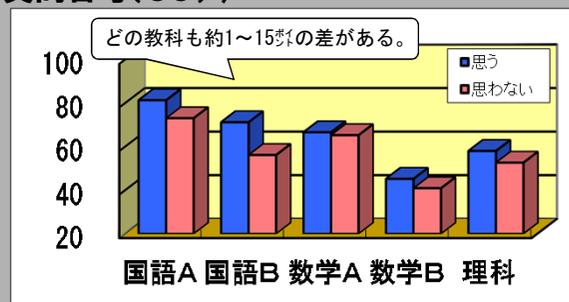
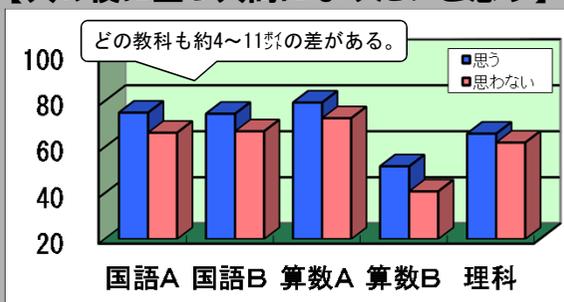
○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしているという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【学校のきまり（規則）を守っている】〈質問番号(32)〉



○学校のきまり（規則）を守っていますかという質問に、「守っている」「どちらかといえば守っている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、特に中学校で相関が顕著である。

【人の役に立つ人間になりたいと思う】〈質問番号(35)〉



○人の役に立つ人間になりたいと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小学校で国語と算数のB問題、中学校で国語のA、B問題で相関が顕著である。

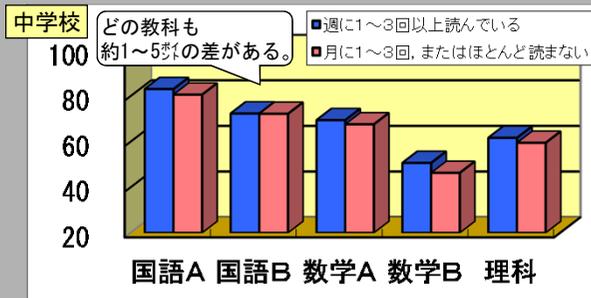
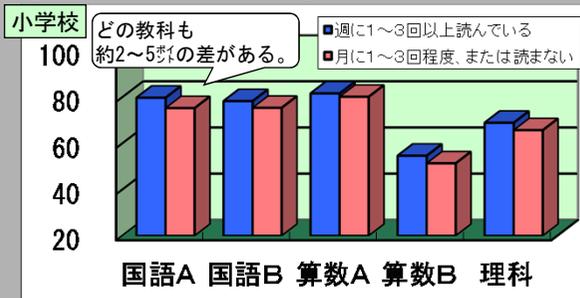
V 学習環境と学力調査との相関

【学習習慣等】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

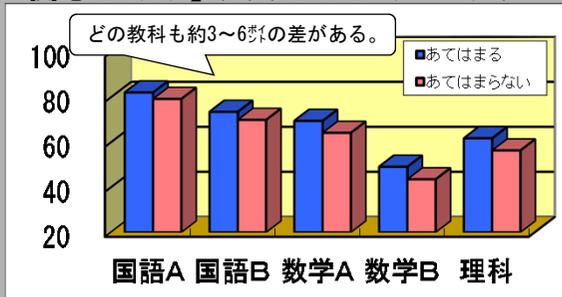
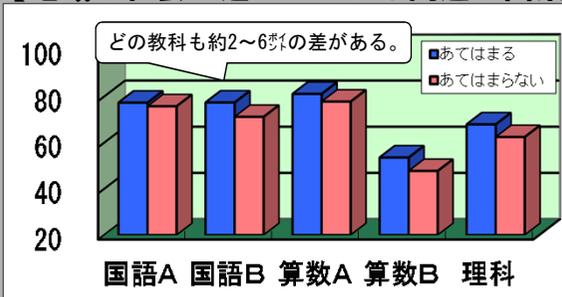
【資料15】

【新聞を読んでいる】〈質問番号（30）〉



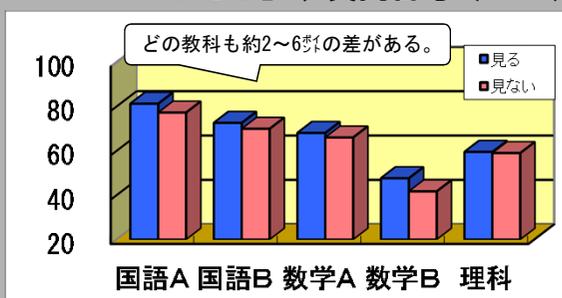
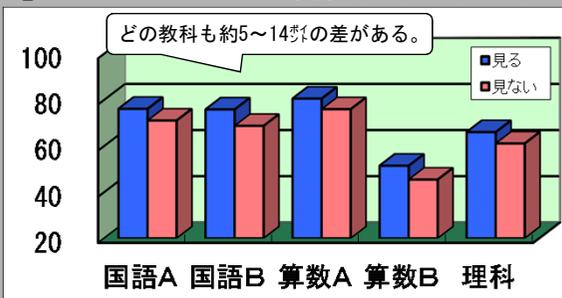
○新聞を読んでいるという質問に、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1~3回程度読んでいる」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある】〈質問番号（28）〉



○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますかという質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る】〈質問番号（31）〉



○テレビ番組のニュースやインターネットのニュースを見ますかという質問に、「よく見る」「時々見る」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

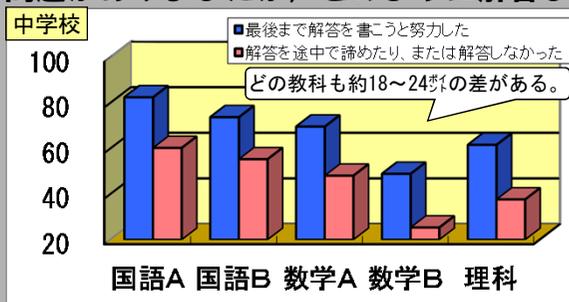
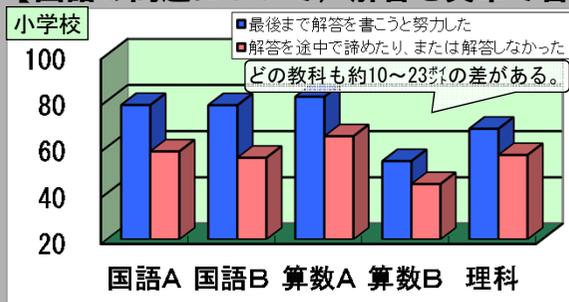
V 学習環境と学力調査との相関

【調査問題への取組】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

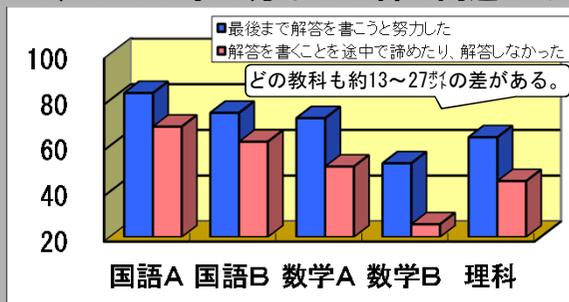
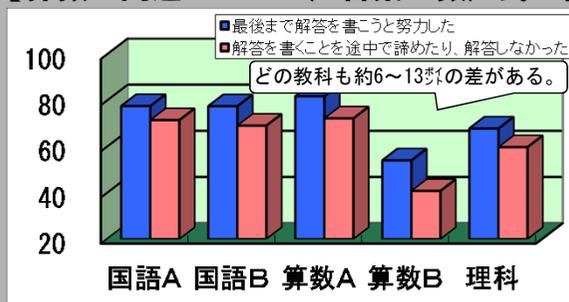
【国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか】〈質問番号(57)〉

【資料16】



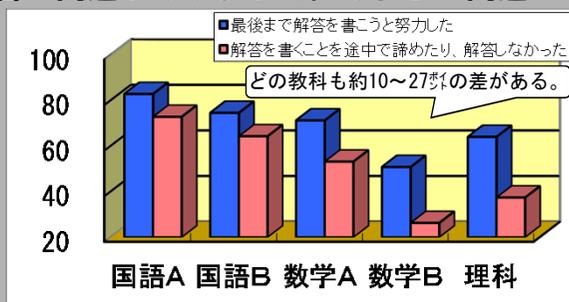
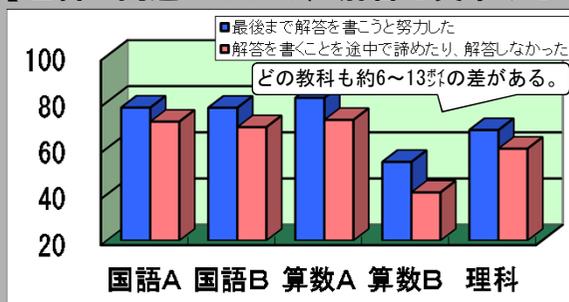
○国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小・中学生共に相関が顕著である。

【算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか】〈質問番号(68)〉



○算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか】〈質問番号(82)〉



○理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたかという質問に、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

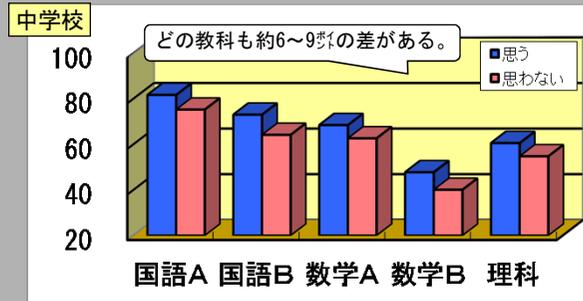
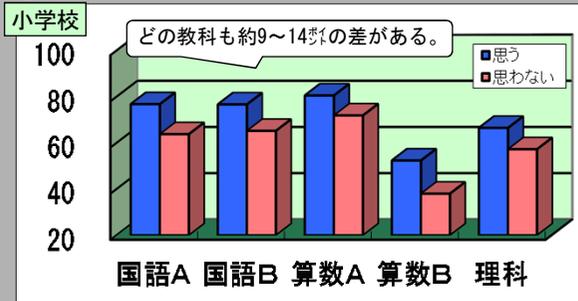
V 学習環境と学力調査との相関

【授業への取組】

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

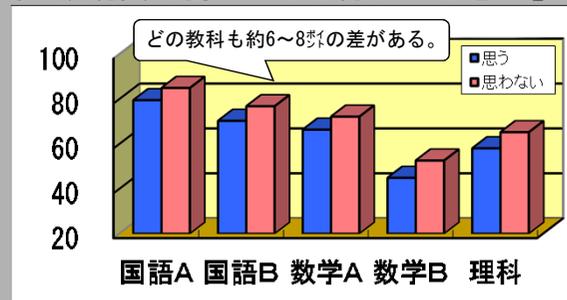
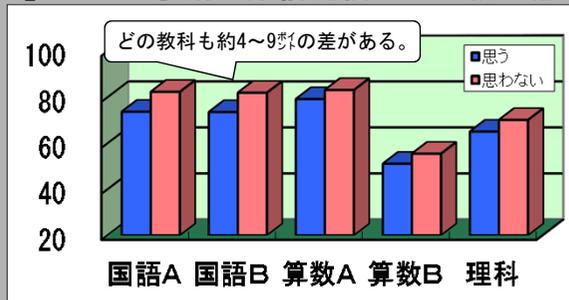
【資料17】

【学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う】
 〈質問番号（40）〉



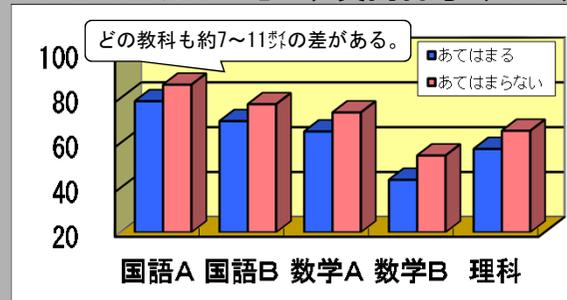
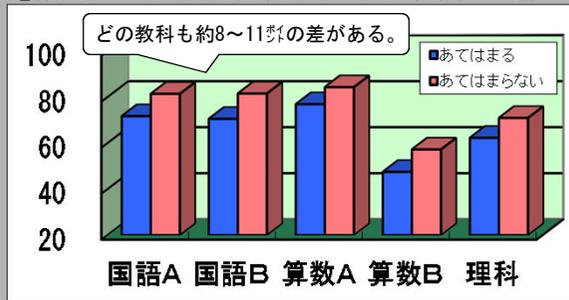
○学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う】〈質問番号（44）〉



○400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますかという質問に、「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

【授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい】〈質問番号（45）〉



○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

VI 学校質問紙調査の結果

1 概要

- 学習指導については、児童生徒を主体とした学習展開、補足的な学習サポート、活用に関わる指導、全国学力・学習状況調査を活用した指導等に関して、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 読書、学び方、生き方等に関わる指導、保護者との連携等に関しても、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

2 結果

(1) 学習指導－1

※H26年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

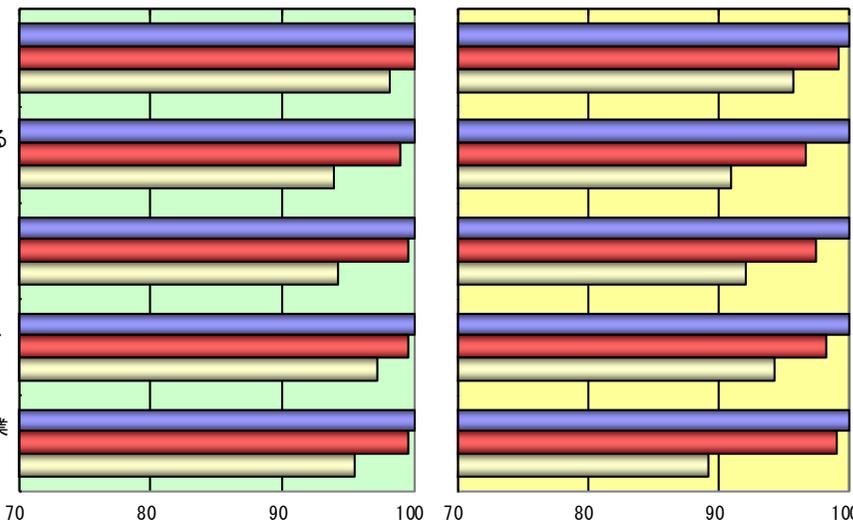
【資料18】

子ども主体の学習

小学校

中学校

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた
- 児童生徒の考えを引き出したり、深めたりする発問や指導をした
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた
- 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



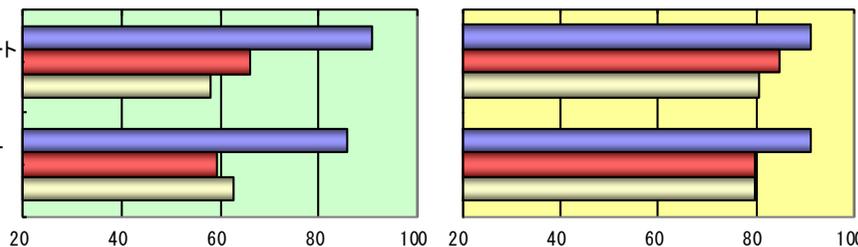
- 子ども主体の授業については、小・中学校共に、ほとんどの質問項目で肯定的な回答が100%であり、各学校の意識の高さが伺える。特に、中学校で「話し合う活動を授業などで行っている」割合が増えている。
- 「見通す・振り返る活動」については、小・中学校共に、「よく行っている」割合が増えている。
- 児童生徒質問紙からは、ほとんどの児童生徒が、子ども主体の学習指導が展開されていることを実感していることが伺える。

補足的な学習サポート

小学校

中学校

- 放課後を利用した補足的な学習サポートを実施した
- 長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施した



- 各学校では、全国や県に比べて補足的な学習サポートを実施している割合が高く、特に中学校では全ての学校が実施しており、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。



VI 学校質問紙調査の結果

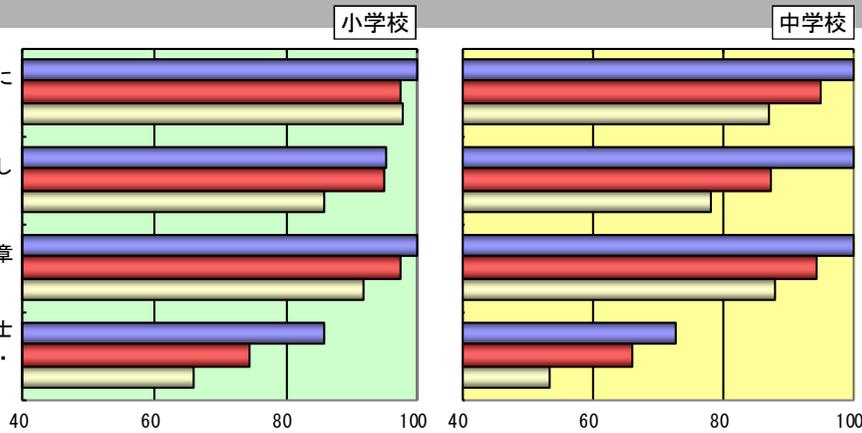
(1) 学習指導－2

※H26年度の状況について回答するもの

活用にかかわる指導

【資料19】

- 学校図書館を活用した授業を計画的に行った
- 資料を使って発表ができるよう指導した
- 自分で調べたことや考えたことを文章に書かせる指導をした
- コンピュータ等を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行った



- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことに、小・中学校共に意欲的である。子ども主体の学習指導の展開との相乗効果がB問題の成果に表れているものと思われる。
- 中学校の図書館活用と資料活用、小学校の書かせる指導については、前年度からの伸びも大きい。
- コンピュータを活用した、学び合いや課題解決学習については、小・中学校共に国や県を大きく上回り、前年度からの伸びも大きい。

(2) 読書、学び方、生き方等指導

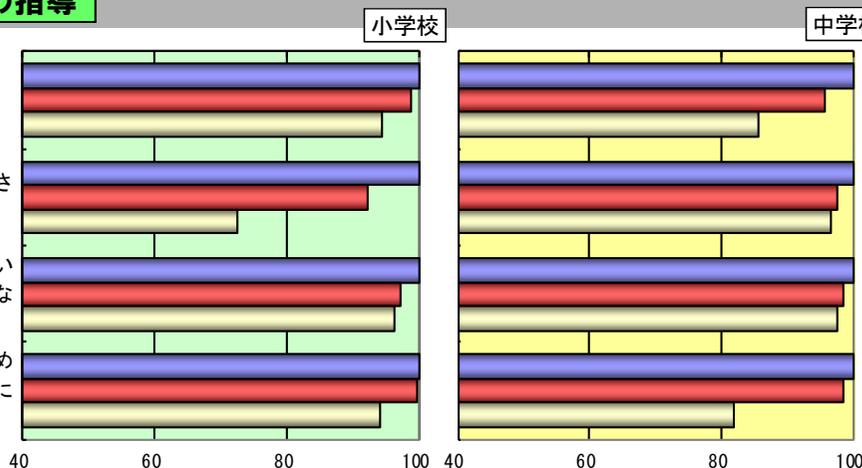
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

読書、学び方、生き方等の指導

【資料20】

- 一斉読書の時間を設けた
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした
- 学習規律(話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底した
- ◆授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した

◆新設問



- 読書、生き方、学び方等の指導については、小・中学校共に意識が高い。
- 生き方指導については、小・中学校共に前年度を上回っており、特に小学校の伸びが大きく、キャリア教育の成果がうかがえる。
- 各学校では、学力向上の土台となる学習規律や学習方法に関する指導が充実している。
- 「ノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くように指導した」という新設問については、小・中学校共に100%であり、ノート指導の徹底が図られていることが伺える。

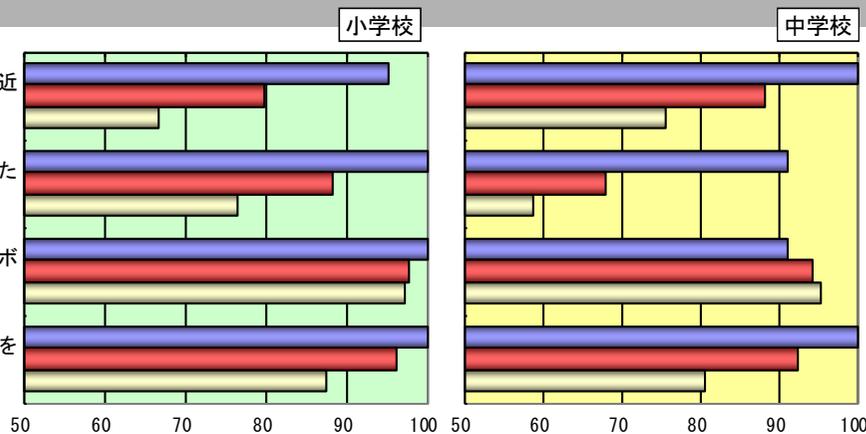
VI 学校質問紙調査の結果

(3) 交流と連携

※H26年度の状況について回答するもの

保護者や地域との連携

- 教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携を行った
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った
- P T A や地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれた
- 昨年度の調査結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけた



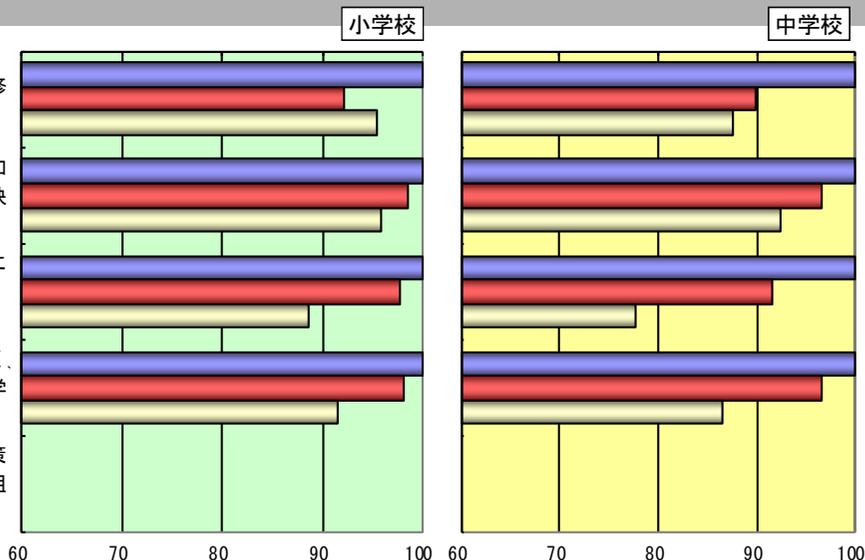
【資料21】

- 各学校の取組は、ほとんどの項目で全国や県を上回っており、市教委が重点としている交流と連携を通して「複数の目で子どもを育てること」に対する積極的な取組姿勢が表れている。
- 小・中学校の円滑な接続を図るため、9年間を見通した学習指導の充実について、さらに各中学校区での連携を充実させていきたい。
- 保護者や地域からの信頼と協力があって、児童生徒の安定した学習環境が構築されていることを再確認したい。

(4) 学校の研修体制

研修体制

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った
- 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させた
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりした
- 言語活動について、国語科だけではなく、各教科の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ
- 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあてた



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

【資料22】

- 各学校の取組は、全国や県を上回っており、研修に関するほとんどの質問項目で、肯定的な回答が100%である。「言語活動について学校全体で取り組んだ」という新設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、教科の枠を超えた組織的な研修体制が確立されてきた。
- 調査の結果や研修の成果を授業改善に活用しようとする前向きな取組が、児童生徒の学力の維持につながっていると捉えている。